

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
新潟コンピュータ専門学校	昭和60年2月26日	小島 友昭	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7-935 NSGｽｶｲ7F (電話) 025-227-1121			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	理事長 池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565			
目 的	クリエイター業界で必要とされるアプリ・コンテンツ開発技術、知識及びチーム制作の実践教育を通じて高度な技術力・柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れたクリエイター業界企業及び社会が必要とするエンターテインメント性を有する人材を育成すること。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
情報処理	工業専門課程	情報システム科	3年制(昼)	2,736単位時間 (又は単位)	平成19年文部科学大臣告示 第20号	-
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	684単位時間 (又は単位)	1,064単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	988単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	49人	2	2人	4人		
学期制度	■前 期：4月1日～9月30日 ■後 期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 習得状況及び出席状況を加味し決定			
長期休み	■学年始め：4月1日～4月5日 ■夏 季：8月8日～8月23日 ■冬 季：12月19日～1月11日 ■学 年 末：3月10日～3月31日	卒業・進級条件	授業科目の全習得			
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 通常カリキュラム時間外にて対応	課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動を中心として実施 ■サークル活動 (有) 無)			
主な就職先	■主な就職先、IT業界 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 93.8% (平成31年度卒業者に関する令和2年4月時点の情報)	主な資格・検定	基本情報技術者試験 応用情報技術者試験			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 1.8% 2020年5月1日在学者 49名 ■中途退学の主な理由 ■中退防止のための取組 早期発見による保護者と連携した中退学防止					
ホームページ	URL: http://ncc-net.ac.jp/					

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

1. 教育課程編成委員会の目的

クリエイター業界は急速に発展する業界であり、必要とされる知識技術も急速に変化している。このような変化の激しいクリエイター業界における人材の専門性に関する動向、新たに必要となる実務に関する開発技術などを十分に把握、分析した上で当該専門課程の教育を施すに最もふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善工夫等を行うために教育課程編成委員会を設ける。

2. 教育課程編成委員会の構成

編成委員会は学校長、教務責任者、及び当該学科の専攻分野に関する企業等（以下「企業等」という）から学校長が依頼する委員により構成される。委員の任期は、1年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合には補欠委員を依頼し残りの前任者任期を依頼するものとする。次年度委員は本人意思を確認し再任することができる。

3. 教育課程編成委員会の運営方法

編成委員会の委員長には学校長が就任する。委員長は会務を統括し編成委員会を運営する。委員長に事故があるとき、又は、委員長が何等かの理由にて欠席したときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。編成委員会は必要に応じて委員以外の者に出席を求めることができる。

学校側委員は企業等委員に対し現行のカリキュラム・科目・授業方法を説明するなどして、十分な情報提供に努める。

編成委員会は全委員企業からも積極的に情報を収集し、さまざまな角度からの意見を踏まえて議論を行うものとする。

4. 教育課程編成委員会検討結果の活用

教育課程編成委員会の検討結果については、学内に於いて該当学科教員・講師により十分に検討し、有効な方策に関してはこれを採用し、速やかに授業科目の開設または授業内容・方法の改善を行い、教育内容の質の保証と向上に努めるものとする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

令和2年4月1日現在

名 前	所 属
田代 昭博	日本クリエイター育成協会会員企業(日本マイクロソフト株式会社)
春日井 良隆	日本クリエイター育成協会会員企業(日本マイクロソフト株式会社)
徳留 和人	日本クリエイター育成協会会員企業・編成委員(株式会社スマイルブーム)
佐野 浩章	日本クリエイター育成協会会員企業(ツエナネットワークス株式会社)
塚本 昌信	日本クリエイター育成協会会員企業(株式会社ランド・ホー)
初芝 弘也	日本クリエイター育成協会会員企業(株式会社トライクレッシェンド)
松下 正和	日本クリエイター育成協会会員企業(株式会社ヘキサドライブ)
羽田 洋平	日本クリエイター育成協会会員企業(株式会社アール・インフィニティ)
富田 賢一	日本クリエイター育成協会会員企業(株式会社ポーンデジタル)
関根 有明	日本クリエイター育成協会会員企業(株式会社ルーデンス)
森永 司	日本クリエイター育成協会会員企業・編成委員(モリパワー株式会社)
納谷 新治	日本クリエイター育成協会会員校(ECCコンピュータ専門学校)
山中 俊治	日本クリエイター育成協会会員校(国際理工情報デザイン専門学校)
松谷 健司	日本クリエイター育成協会会員校(太田情報商科専門学校)
斎藤 俊樹	芝通アドバンス株式会社
小島 友昭	新潟コンピュータ専門学校
山本 由紀子	新潟コンピュータ専門学校
増田 量滋	新潟コンピュータ専門学校

名 前	所 属
徳留 和人	株式会社スマイルブーム
斎藤 俊樹	芝通アドバンス株式会社
森永 司	モリパワー株式会社
小島 友昭	学校長
山本 由紀子	教務部 情報システム科学科長
増田 量滋	統括学科長

(開催日時)

第1回 令和2年 10月 2日 14:00~15:00 予定

第2回 令和2年 2月 5日 14:00~15:00 予定

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

1. 企業等との連携による実習・演習等の目的

クリエイター業界で使用されている標準技術、最新技術等を学生が現場で実践されている「グループ制作」により体験し習得する為に、企業等と連携して実習・演習を行う。

2. 企業等との連携による実習・演習等の運営

現場で実施されている「グループ制作」を学生に行わせ、ポイント毎に日本クリエイター育成協会会員企業及び連携企業による作品評価を実施し学生による修正を実施させる。この際に学科教員・講師により企業等から指摘された点の改善が行われているかを確認・指導する。また、この改善がエンターテインメント性を意識したものであるかを随時確認して行くことが重要である。

この指導方法等は連携企業を中心として教務部長・学科主任と共に改善案を検証し改善を図る。

3. 企業等との連携による実習・演習等の評価

本校教員・講師は連携する日本クリエイター育成協会会員企業及び連携企業担当者が学生作品に対し評価を実施する。この評価を元に本校教員・講師が成績評価を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
プログラム実習	グループにて実際にアプリを企画設計し、開発を行い制作した作品をコンテストに出品して評価してもらう	日本クリエイター育成協会 株式会社スマイルブーム モリパワー株式会社
アプリケーション実習Ⅰ	グループにて実際にアプリを企画設計し、開発を行い制作した作品をコンテスト・就職活動用に活用する	日本クリエイター育成協会 株式会社スマイルブーム モリパワー株式会社
アプリケーション実習Ⅱ	グループにて実際にアプリを企画設計し、開発を行い制作した作品をコンテスト・就職活動用に活用する	日本クリエイター育成協会 株式会社スマイルブーム モリパワー株式会社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的

就業規即第57条及び「職員の教育・研修に関する細則」(添付1-3-1参照)に定められている通り、教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教員・講師の授業技術の向上・指導技術の向上を目指し研修を毎年度教員・講師のスキル状況に合わせて適宜受講させる事とする。

2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営

研修については本校の所属する学校法人による研修と、外部研修を適時組み合わせる。教員・講師は研修に参加した際には報告書を作成し提出する。また、その研修内容について学科内にて報告会を実施するなどして学科内教員・講師の情報共有を実施している。

4. 学校関係者評価

学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

令和2年4月1日現在

名 前	所 属
増澤 正利	新潟コンピュータ専門学校校友会(OB・OG) 副会長
森永 司	モリパワー株式会社 代表取締役
新倉 寛明	株式会社ボーンデジタル
阿部 正善	にいがたデジタルコンテンツ推進協議会 専務理事
小島 友昭	新潟コンピュータ専門学校 学校長
増田 量滋	新潟コンピュータ専門学校 統括学科長
入山 潤也	新潟コンピュータ専門学校 事務局長

(学校関係者評価結果の公表方法)

当校ホームページ(URL: <http://ncc-net.ac.jp/>)にて提供する

5. 情報提供

(情報提供の方法)

書類又は、当校ホームページ(<http://ncc-net.ac.jp/>)にて提供する

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム科3年制) 令和2年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			コンピュータシステム概論	コンピュータの基礎知識を習得する	1前	76	5	○		
○			システム設計	コンピュータ開発に於ける設計の基礎知識を習得する	1前	76	5	○		
○			システム開発演習 I	コンピュータ開発の一連の流れを演習通して習得する	1前	76	5	△	○	
○			アルゴリズム	プログラム開発の元となる構造形式を習得する	1前	76	5	△	○	
○			Java プログラミング I	Java プログラミング基礎となるプログラミング言語の理解と実演習を通して理解させる	1前	76	5	△	○	
○			C 言語 I	C プログラミング基礎となるプログラミング言語を理解させ制作の基礎となるプログラミング能力を付けさせる	1後	152	9	△	○	
○			表計算実習 I	表計算ソフトの利用の仕方を習得する	1後	76	5	△	○	
○			情報処理 2 種対策	コンピュータの基礎知識を資格試験にて確認する	1後	76	5	○		
●			プログラム実習	グループにて実際にアプリを企画設計し、開発を実践する	1	152	5			○
○			ワープロ実習	企業に必要とされる文書・報告書をワープロソフトにて実践的に作成する	1後	76	2			○

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム科3年制) 令和2年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			システム開発演習Ⅱ	コンピュータ開発の一連の流れを演習を通して習得する	2	76	2			○
○			表計算実習Ⅱ	表計算ソフトに組み込むプログラミングを実践的に開発し理解させる	2	76	2			○
○			表現技法	グラフィックユーザーインターフェースを意識した開発技術を習得しユーザーに使いやすいアプリを提供させる事を意識付ける	2	76	5	△	○	
○			オペレーティングシステム	Windows、Android OS、AppleOSなどの開発環境の違いを理解させる。	2	76	5	○		
○			オブジェクト指向Ⅰ	開発環境のオブジェクト指向型を理解させ、オブジェクト指向型開発の技術・知識を習得する	2	76	5	△	○	
●			アプリケーション実習Ⅰ	グループにて実際にアプリを企画設計し、開発を実践する	2	76	2			○
○			HPプログラミング	ホームページに組み込まれるデータベースや課金システムなどの技術・知識を習得させる	2	76	5	△	○	
○			C++プログラミングⅠ	Windows系開発に必要なプログラミング言語の基礎を習得する	2	76	5	△	○	
○			データベースシステム	データベース構築用の知識・技術を習得させ利用環境に応じた開発を意識付ける	2	152	5	△	○	
○			JavaプログラミングⅡ	習得したJavaプログラミング言語を活用し実際にアプリ開発を実践し開発能力を習得させる	2	76	2			○
○			情報処理検定対策	コンピュータの複合知識を資格試験にて確認する	3	76	5	○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム科3年制) 令和2年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			C++プログラミングⅡ	習得した Windows 系プログラミング言語にてアプリ開発を実践し開発能力を習得する	3前	76	2			○
●			アプリケーション実習Ⅱ	グループにて実際にアプリを企画設計し、開発を実践する	3	76	2			○
○			オブジェクト指向Ⅱ	習得したオブジェクト指向型開発の技術・知識を活用し開発を実践する	3前	76	5	△	○	
○			データベース設計演習	データベースを実際に構築し、アプリとの連携を学び実践する	3前	152	5			○
○			マトリクス会計	開発費・人件費・その他費用など企業会計の必要性と関係を理解する	3前	76	5	○		
○			経営学	IT 企業の開発に於けるコスト管理・マーケティングの必要性を理解する	3後	76	5	○		
○			心理学	企業界のユーザーニーズを調査する場合の心理的要因の元を理解する	3後	76	5	○		
○			ビジネス教養	企業に於ける一般常識を理解する	3後	76	5	○		
○			UNIX 演習	アンドロイド端末の元となる UNIX を実践的に習得しクライアント・サーバー開発を理解させる	3後	76	5	△	○	
		○	システム開発	IT 系企業で実践するシステム開発を疑似的に実施行程管理を習得する ※ソフトウェア開発と選択	3後	152	5			○
		○	ソフトウェア開発	IT 系企業で実践するシステム開発を疑似的に実施行程管理を習得する ※システム開発と選択	3後	152	5			○
合計					31 科目	2,736 単位時間 (143 単位)				